

# 日本水紀行 (1)総説および北海道の名水

島野 安雄<sup>1)</sup>・永井 茂<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

近年、“水”に関していろいろの面で報道特集などとしてテレビや雑誌等に取り上げられる機会が多くなってきており、水に対する人々やマスコミなどの関心の度合が急速に高まってきているといえる。それら水問題の中では、身近な地域に密着した地下水や河川水についての水質汚染や汚濁に関するもの、あるいは飲み水として「おいしい水」か「まずい水」かという味覚や生活要件に関するものなどが多いようである。これに関係して特に、都市域での水道水としての水の味が近年きわめて悪くなったという声が高まっている。その影響がどうか、最近では水道に浄水器を付けたりする家庭も増えてきているという。また、ミネラルウォーターやナチュラルウォーターというボトル入りの水がよく売れているという昨今でもある。

ところで、わが国は古来より良質の水に恵まれていると言われているが、近年は無神経な地域開発が進められてきた結果、水についての汚染や汚濁が広がり、多くの地域で存在していた清水が失われつつある。この貴重な清水は、一旦それが失われると、回復が容易でないのみならず、今後いろいろな面に悪影響を及ぼしかねない側面がある。こうした点が、逆に、日本の水の貴重さの再認識や地域環境の見直し、さらには保護・保全への活動呼び起こし、「日本名水百選」の選定への契機となったものと考えられる。

さて、名水百選に選出された名水とは如何なる水かという点、一応、環境庁が設けた検討会での選定基準があり、それに沿って学識経験者らが選んだもので、飲んで“おいしい水”であるとは必ずしも限らないが、それなりの水質基準に合致したものであ

ると考えられていた。しかしながら、それら名水についての水質は明示されていないものがほとんどである。中には最近、水質不良で新聞・テレビ等に取り上げられ、物議をかもししているものもある。しかし、他の多くの名水はやはりそれなりに清冽な水であると考えられる。

筆者らはこれら名水の水質に興味を持ち、名水百選に選定されて以来、各地の名水を訪れ採水調査を行ってきている。そして、筆者らは1989年10月に筑波の工業技術院で開かれた日本地下水学会秋季講演会の席で、「名水百選の水質と水文環境」と題した発表を行った経緯がある(島野・永井, 1989)。その際には、それまでに現地を訪れた70数地点について、水質や周辺環境の状況等に関して報告を行ったものである。その後、20数地点を訪れ、今日までに計99ヶ所の名水百選の地を訪ねたことになる。こうした時に「地質ニュース」編集委員会の方より、名水百選に関するレポートを書いてみないかという依頼があり、浅学非才をも顧みず、お引受けした次第である。

ここでは「名水紀行」と題して、名水百選に選定された各々の名水について、水質や水量という水文化学的特性あるいは周辺の地形・地質などの水文環境に関する面を中心にして述べる他に、水利用の状況や故事来歴ならびにその他の特異な事項等に関して紹介してゆく予定である。まず初めとして、今回は名水百選についての概説と北海道の名水に関して取り扱う。その後は、各地方を1回分位として計10回ほどに分けて書いてゆく予定にしている。

## 2. 日本名水百選とは

「名水百選」は、1985年(昭和60年)に環境庁によ

キーワード：名水百選、湧水、水文環境、北海道

1) 宇都宮文星短期大学文化学科：〒320 栃木県宇都宮市上戸祭4-8-15

2) 地質調査所 環境地質部

り選定されたもので、日本全国に存する清澄な水、特に湧水・地下水および表流水について優れたものの再発見に努め、国民一般にそれらを紹介し、認識・普及を図ることを目標にしている。名水の選定に際しては、都道府県を介して全国各地の市町村から推薦された784ヶ所の中から、次のような基準により100地点が選ばれている(環境庁, 1985)。

- (1) 水質, 水量, 周辺環境, 親水性の観点からみて, 状態が良好。
- (2) 地域住民等による保全活動がある。

この2項を必須条件として、他に(3)規模, (4)故事来歴, (5)希少性, 特異性, 著名度等を勘案している。

選定されたものについてみると、湧水が約3/4を占め、残りを河川水と地下水が占めている。また、選定された地点についてみてみると、少なくとも各都道府県で1地点は選ぶという要件があり、1ヶ所のみが10府県, 2ヶ所が23都府県, 3ヶ所が12道県, そして4ヶ所が2県である(第1図および第1表)。一つの県で4ヶ所選ばれたのは富山県と熊本県であり、3ヶ所は北海道・石川・福井・山梨・長野・岐阜・兵庫・岡山・山口・愛媛・大分・鹿児島各県である。したがって、名水百選の分布域をみると、北陸地方・中部山岳地域および九州地方などで分布密度が高いようである。ところで、百選ということで100ヶ所しか選ばれていないが、この他にも名水に相当するものが数多く存在している。それらの中では、その後、名水にふさわしいということ各都道府県などによる名水に選定されているものも多くある(主婦与生活社, 1988)。そして、名水やその水環境を保全・保護する目的で、各地に水環境保全に関する団体や協会・研究会等が設立されていて、それぞれ活動を行っているところも多い。

なお、これまでに99ヶ所の名水の地を訪れ採水調査を行ったが、残りの1ヶ所についてはこの連載中に訪れ、紙面には100ヶ所の名水について報告したいと思っている。既に訪れた99ヶ所の名水の地の中には1回しか訪れていない所、数回行ったことのある所、あるいは10回以上も行ったことのある所などその頻度はまちまちである。また、名水も場所によっては湧水群ということで、何ヶ所かの湧泉を包括している所もある。したがって、延べにすると、名水の地を200回以上訪れ、300本以上のサンプルを採水してきたことになる。

これから紙面中に紹介する水質データは、これらの採水調査をもとに主要溶存成分等に関して水質分析を行った結果を示したものである。表中の水温・pH・RpH・電気伝導度は、現地での採水時に測定したものである。そして、電気伝導度に関しては25°Cに換算して表示してある。また、主要溶存成分であるアルカリ度( $\text{HCO}_3^-$ )・ $\text{Cl}^-$ ・ $\text{SO}_4^{2-}$ ・ $\text{NO}_3^-$ ・ $\text{Na}^+$ ・ $\text{K}^+$ ・ $\text{Ca}^{++}$ ・ $\text{Mg}^{++}$ ・ $\text{SiO}_2$ 等に関しては、採水したサンプルを密封して持ち帰り、実験室で分析したものである。

### 3. 北海道の名水

北海道内で「名水百選」に選定されたのは3ヶ所である。名水番号に準じて挙げると、羊蹄山麓のふきだし湧水, 利尻島の甘露露水, そして千歳川支流のナイベツ川湧水である。これら3名水については、昨年9月に現地を訪れたが、その際の現地の状況をもとに紹介する。

#### 3.1 羊蹄のふきだし湧水

北海道を代表する山の一つに羊蹄山がある。羊蹄山は標高が1893 mと北海道の南西半島部では随一の高さを誇り、別名を“蝦夷富士”あるいは“後志富士”とも呼ばれ、コニーデ型の美しい山容を呈した火山である。周辺の平地からの比高は約1700 m, 底面の直径約12 km, 頂上には直径700 m, 深さ200 mの火口をもっている(瀬川, 1974)。この羊蹄山はアイヌ名をマツカリヌプリのうちのマチネシリ(雌岳)で、南東の尻別岳がピンネシリ(雄岳)と称されている。しかし、羊蹄山は沖積世に形成された火山であるが、歴史時代の活動記録もなく、現在の火山活動もよく知られていない火山である。ところで、羊蹄山の山麓には多くの湧水が存在していることが知られている(鶴巻, 1989)。「羊蹄のふきだし湧水」もその一つであり、羊蹄山の北東麓に位置する京極町の“ふきだし公園”内に湧き出している(第2図)。

ふきだし公園に行くには、国道5号およびJR函館本線が通っている俱知安町から東に延びている国道276号を利用して、京極町へと向かう。京極町市街地からは西に進み、尻別川を渡ると、ふきだし公園への入口の看板等が見えてくる。ふきだし公園は、京極町の中心地からは約1 kmほどの距離の所

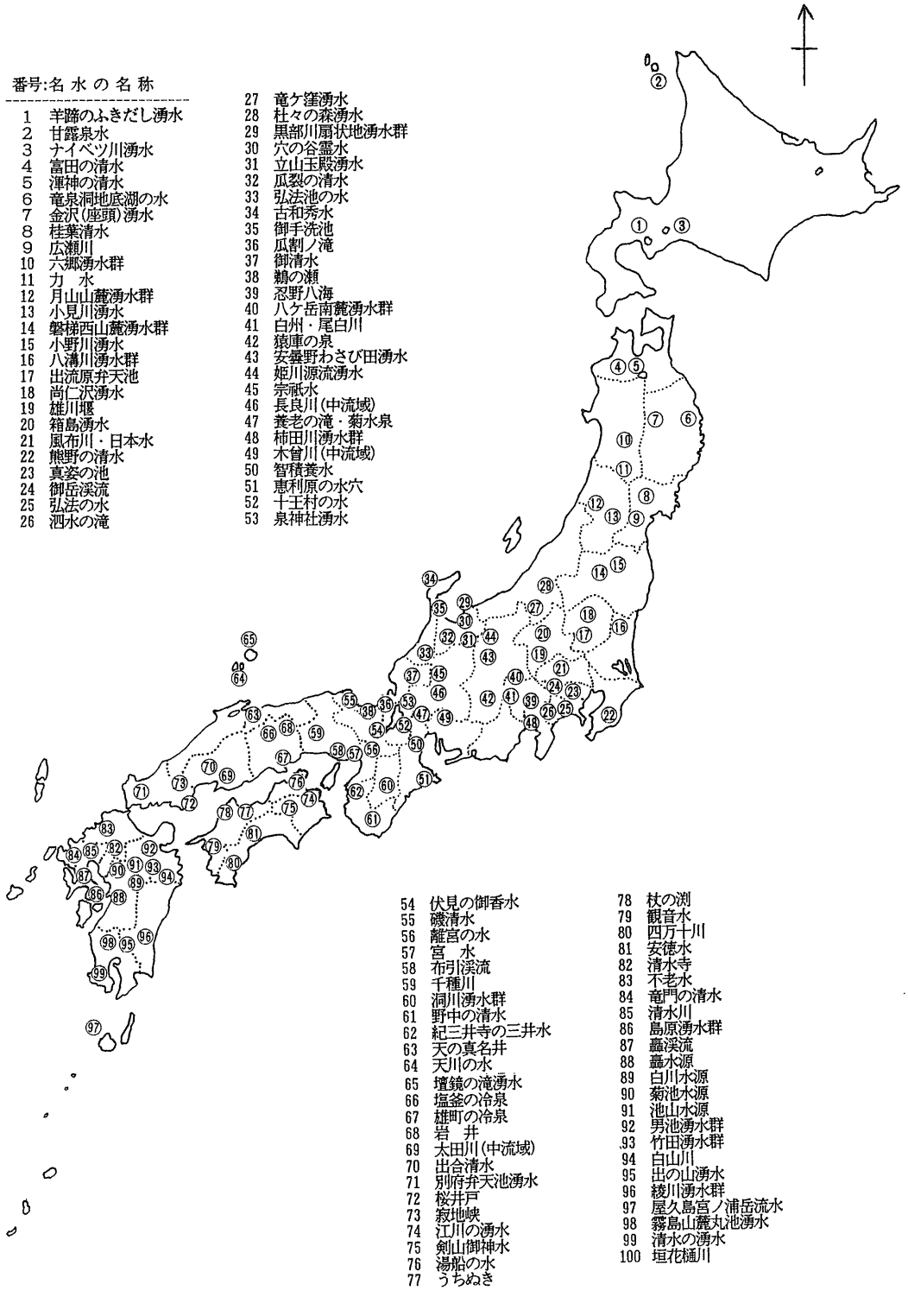
番号:名水の名称

- 1 羊蹄のふきだし湧水
- 2 甘露泉水
- 3 ナイベツ川湧水
- 4 富田の清水
- 5 湊神の清水
- 6 竜泉洞地底湖の水
- 7 金沢(座頭)湧水
- 8 桂葉清水
- 9 広瀬川
- 10 六郷湧水群
- 11 力水
- 12 月山山麓湧水群
- 13 小見川湧水
- 14 壱梯西山麓湧水群
- 15 小野川湧水
- 16 八溝川湧水群
- 17 出流原弁天池
- 18 尚仁沢湧水
- 19 雄川堰
- 20 箱島湧水
- 21 風布川・日本水
- 22 熊野の清水
- 23 真姿の池
- 24 御岳溪流
- 25 弘法の水
- 26 泗水の滝

- 27 竜ヶ窪湧水
- 28 社々の森湧水
- 29 黒部川扇状地湧水群
- 30 穴の谷霊水
- 31 立山玉殿湧水
- 32 瓜裂の清水
- 33 弘法池の水
- 34 古和秀水
- 35 御手洗池
- 36 瓜割ノ滝
- 37 御清水
- 38 鵜の瀬
- 39 忍野八海
- 40 八ヶ岳南麓湧水群
- 41 白州・尾白川
- 42 猿軍の泉
- 43 安曇野わさび田湧水
- 44 姫川源流湧水
- 45 宗祇水
- 46 長良川(中流域)
- 47 養老の滝・菊水泉
- 48 柿田川湧水群
- 49 木曾川(中流域)
- 50 智積養水
- 51 恵利原の水穴
- 52 十王村の水
- 53 泉神社湧水

- 54 伏見の御香水
- 55 磯清水
- 56 離宮の水
- 57 宮水
- 58 布引溪流
- 59 千種川
- 60 洞川湧水群
- 61 野中の清水
- 62 紀三井寺の三井水
- 63 天の真名井
- 64 天川の水
- 65 壇鏡の滝湧水
- 66 塩釜の冷泉
- 67 雄町の冷泉
- 68 岩井
- 69 太田川(中流域)
- 70 出合清水
- 71 別府弁天池湧水
- 72 桜井戸
- 73 救地峡
- 74 江川の湧水
- 75 剣山御神水
- 76 湯船の水
- 77 うちぬき

- 78 杖の淵
- 79 観音水
- 80 四万十川
- 81 安徳水
- 82 清水寺
- 83 不老水
- 84 竜門の清水
- 85 清水川
- 86 島原湧水群
- 87 轟溪流
- 88 轟水源
- 89 白川水源
- 90 菊池水源
- 91 池山水源
- 92 男池湧水群
- 93 竹田湧水群
- 94 白山川
- 95 出の山湧水
- 96 綾川湧水群
- 97 屋久島宮ノ浦岳流水
- 98 霧島山麓丸池湧水
- 99 清水の湧水
- 100 垣花樋川



第1図 名水百選の分布図

第1表 名水百選の概要

番号	名水の名称	所在地名	水源	標高(m)	地形・地質など
1	羊蹄のふきだし湧水	北海道京極町	Sp	240	火山：山麓
2	甘露泉水	北海道利尻富士町	Sp	250	火山：山麓
3	ナイベツ川湧水	北海道千歳市	Sp	40-60	火山：山麓
4	富田の清水	青森県弘前市	Sp	40	沖積地：市街地
5	渾神の清水	青森県平賀町	Sp	150	山地：山麓
6	竜泉洞地底湖の水	岩手県岩泉町	Sp	200	鍾乳洞：石灰岩
7	金沢(座頭)湧水	岩手県松尾村	Sp	460	火山：山麓
8	桂葉清水	宮城県高清水町	Sp	25	台地：段丘崖
9	広瀬川	宮城県仙台市	R	100~	山間地
10	六郷湧水群	秋田県六郷町	Sp	40-60	扇状地：市街地
11	力水	秋田県湯沢市	Sp	100	丘陵地：山麓
12	月山山麓湧水群	山形県西川町	Sp	1000	山地：山腹~山麓
13	小見川湧水	山形県東根市	Sp	90	沖積地：果樹園
14	磐梯西山麓湧水群	福島県磐梯町	Sp	420	火山：山麓
15	小野川湧水	福島県北塩原村	S	920-1200	山地：山腹
16	八溝川湧水群	茨城県大子町	Sp	850-900	山地：頂上近く
17	出流原弁天池	栃木県佐野市	Sp	65	山麓：石灰岩
18	尚仁沢湧水	栃木県塩谷町	Sp	600-700	山地：山腹
19	雄川堰	群馬県甘楽町	R	270~	用水路
20	箱島湧水	群馬県東村	Sp	390	火山：山麓
21	風布川・日本水	埼玉県寄居町	R・Sp	200-500	山地：変成岩
22	熊野の清水	千葉県長南町	Sp	100	丘陵地：山麓
23	真姿の池	東京都国分寺市	Sp	70	台地：段丘崖
24	御岳溪流	東京都青梅市	R	180~	山間地
25	弘法の水	神奈川県秦野市	Sp	95	沖積地：市街地
26	泗水の滝	神奈川県山北町	R	220~	山地の溪流
27	竜ヶ窪湧水	新潟県津南町	Sp	480	丘陵地：山麓
28	杜々の森湧水	新潟県栃尾市	Sp	200	丘陵地：山麓
29	黒部川扇状地湧水群	富山県黒部市・入善町	Sp・Gw	1-5	扇状地
30	穴の谷霊水	富山県上市町	Sp	100	丘陵地：山麓
31	立山玉殿湧水	富山県立山町	Sp	2420	トンネル内湧水
32	瓜裂の清水	富山県庄川町	Sp	130	丘陵地：山麓
33	弘法池の水	石川県鳥越村	Sp	180	河岸段丘
34	古和秀水	石川県門前町	Sp	200	山地：頂上近く
35	御手洗池	石川県田鶴浜町	Sp	40	丘陵地：山麓
36	瓜割ノ滝	福井県上中町	Sp	80	山地：山麓
37	御清水	福井県大野市	Sp	175	盆地：市街地
38	鶉の瀬	福井県小浜市	R	60	山間地
39	忍野八海	山梨県忍野村	Sp	920	火山：山麓
40	八ヶ岳南麓湧水群	山梨県長坂・小淵沢町	Sp	900-1100	火山：山麓
41	白州・尾白川	山梨県白州町	R	800~	山地の溪流
42	猿庫の泉	長野県飯田市	Sp	760	山地：山麓
43	安曇野わさび田湧水	長野県豊科町	Sp	530	沖積地：扇状地
44	姫川源流湧水	長野県白馬村	Sp	760	山麓
45	宗祇水	岐阜県八幡町	Sp	210	河岸：市街地
46	長良川(中流域)	岐阜県美濃市など	R	60~150	山間地
47	養老の滝・菊水泉	岐阜県養老町	R・Sp	200	山地：山麓
48	柿田川湧水群	静岡県清水町	Sp	17	沖積地(火山山麓)
49	木曾川(中流域)	愛知県犬山市	R	50~70	山間地
50	智積養水	三重県四日市市	Sp	48	沖積地：水田

水源：Sp(湧水)、Gw(地下水)、Gf(被圧地下水)、R(河川水)、S(湧水および渓流水)。

にあり、羊蹄山の長い山麓脚の末端に凹地状の地形を呈した部分に位置している。

ふきだし湧水は、標高約240mの馬蹄型を呈した地形の谷頭部から湧出している。湧出口には大き

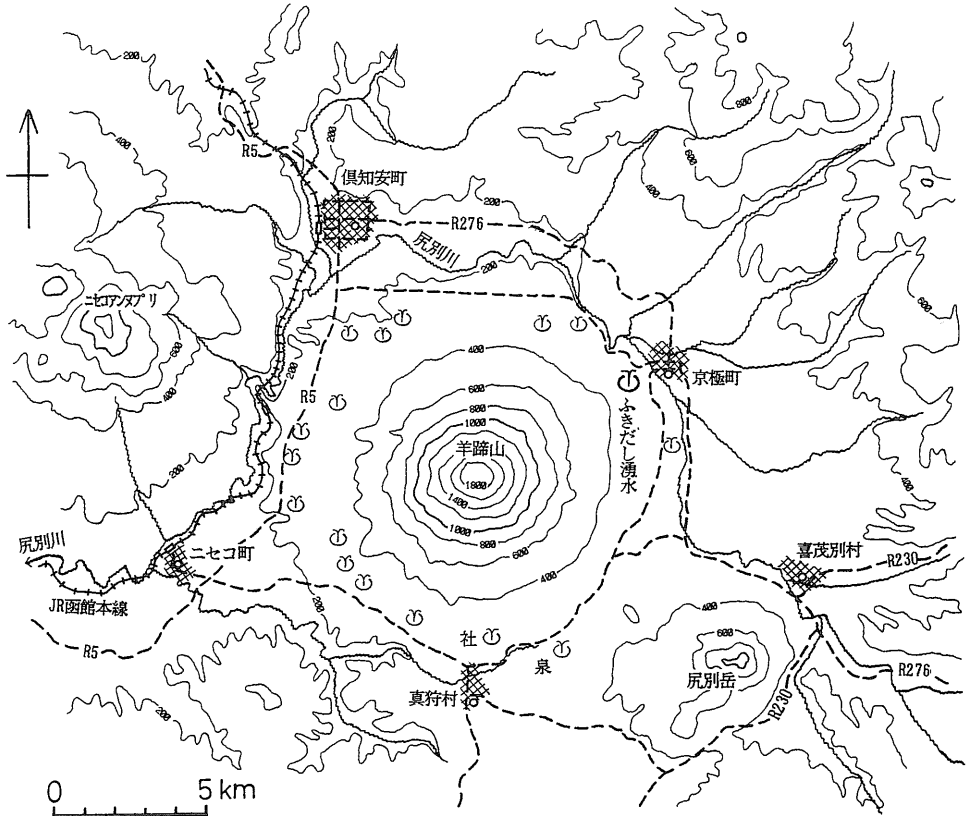
な溶岩らしき岩石がいくつもあり、その間から地下水が多量に湧き出ている。湧き出た水は石組された池で溜められているが、直ちにそこから溢れ、流れ落ちている(写真1)。湧出量はかなり多い感じで、

番号	名水の名称	所在地名	水源	標高(m)	地形・地質など
51	恵利原の水穴	三重県磯部町	Sp	100	山麓
52	十王村の水	滋賀県彦根市	Sp	90	沖積地：市街地
53	泉神社湧水	滋賀県伊吹町	Sp	220	山麓：石灰岩
54	伏見の御香水	京都府京都市	Gw	35	沖積地：市街地
55	磯清水	京都府宮津市	Gw	1	砂州
56	離宮の水	大阪府島本町	Gw	20	沖積地
57	宮水	兵庫県西宮市	Gw	4	海浜：市街地
58	布引溪流	兵庫県神戸市	R	100	六甲山地の溪流
59	千種川	兵庫県西南部	R	100-200	山間地
60	洞川湧水群	奈良県天川村	Sp	850	山麓：(石灰岩)
61	野中の清水	和歌山県中辺路町	Sp	480	山腹
62	紀三井寺の三井水	和歌山県和歌山市	Gw	20	丘陵地：山麓
63	天の真名井	鳥取県淀江町	Sp	20	火山：山麓
64	天川の水	島根県海士町	Sp	20	丘陵地：山麓
65	壇鏡の滝湧水	島根県都万村	Sp	320	山地：山腹
66	塩釜の冷泉	岡山県八束村	Sp	490	火山：山麓
67	雄町の冷泉	岡山県岡山市	Sp	5	沖積地：市街地
68	岩井	岡山県上斎原村	Sp	800	山地：山腹
69	太田川(中流域)	広島県広島市	R	10-100	山間地および市街地
70	出合清水	広島県府中市	Sp	20	台地：市街地
71	別府弁天池湧水	山口県秋芳町	Sp	115	山間盆地
72	桜井戸	山口県岩国市	Gw	10	海浜
73	寂地峡	山口県錦町	R	480	山地の溪流
74	江川の湧水	徳島県鳴島町	Sp	20	沖積地：吉野川
75	剣山御神水	徳島県東祖谷山村	Sp	1800	剣山：山頂部
76	湯船の水	香川県池田町	Sp	360	小豆島：山腹
77	うちぬき	愛媛県西条市	Gf	1-10	沖積地
78	杖の淵	愛媛県松山市	Sp	40	沖積地
79	観音水	愛媛県宇和町	Sp	320	山麓
80	四万十川	高知県西部	R	0-200	山間地
81	安徳水	高知県越知町	Sp	500	山地：山腹
82	清水寺	福岡県浮羽町	Sp	70	山地：山麓
83	不老水	福岡県福岡市	Gw	10	丘陵地の麓
84	竜門の清水	佐賀県西有田町	S	120	山地の溪流
85	清水川	佐賀県小城町	S	200	山地の溪流
86	島原湧水群	長崎県島原市	Sp	10-90	火山：山麓～海浜
87	轟溪流	長崎県高来町	R	240	火山：山麓
88	轟水源	熊本県宇土市	Sp	10	丘陵地：山麓
89	白川水源	熊本県白水村	Sp	490	火山：山麓
90	菊池水源	熊本県菊池市	R・Sp	500～	火山：山麓
91	池山水源	熊本県産山村	Sp	770	火山：山麓
92	男池湧水群	大分県庄内町	Sp	860	火山：山麓
93	竹田湧水群	大分県竹田市	Sp	240-280	丘陵地：山麓
94	白山川	大分県三重町	R	150～	山間地
95	出の山湧水	宮崎県小林市	Sp	250	火山：山麓
96	綾川湧水群	宮崎県綾町	Sp・S	180-200	山地
97	屋久島宮ノ浦岳流水	鹿児島県屋久島	R	0～	山地の溪流
98	霧島山麓丸池湧水	鹿児島県栗野町	Sp	200	火山：山麓
99	清水の湧水	鹿児島県川辺町	Sp	170	丘陵地：山麓
100	垣花樋川	沖縄県玉城村	Sp	90	台地：山腹

0.5 m<sup>3</sup>/秒以上の量が湧出しているようである。この湧水の水は、京極町の上水道の他に、ニジマスの養殖や工業用水にも利用されている。この湧水の水温は6.8℃、pHとRpHはそれぞれ6.7と6.9であり、また電気伝導度の値は102.4 μS/cmと、甘露泉水

やナイベツ川湧水と共にきわめて良質な水である(第2表)。水質の型はCa-HCO<sub>3</sub>型を呈している(第5図)。

羊蹄山の山麓には第2図にみられるように、湧出量の大きな湧泉が多く分布している(鶴巻、



第2図 羊蹄のふきだし湧水の位置図



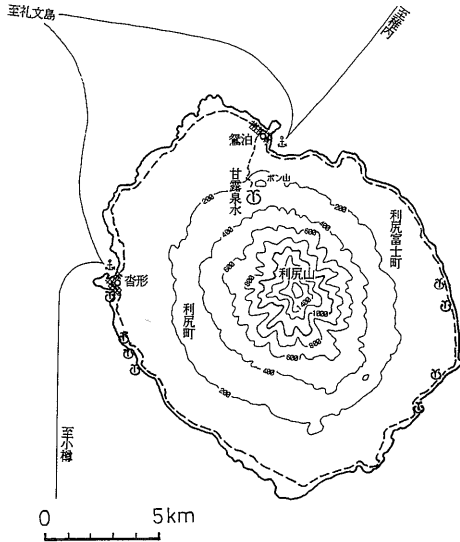
写真1 羊蹄のふきだし湧水

1989). この図には20 l/秒以上の湧水を記載してあるが、それら湧水は「ふきだし湧水」と同じように、ほとんどが220~260 mの標高に位置している。羊蹄山の山麓周辺部は、標高200~300 mの台地ないし台地状山地が発達しており、火山体の基盤をなす留寿都層と呼ばれる難透水性の洞爺火山噴出物からなっている。湧水の多くは、火山砕屑岩や溶岩の中

を流下してきた地下水が山麓部の崖錐・河成堆積物からなる地層に入り、その地層中から湧出するとされている(鶴巻, 1989)。これら湧水の湧出量の合計は、豊水期で約5 m<sup>3</sup>/秒、低水期でも約3 m<sup>3</sup>/秒の湧出があるという(鶴巻, 1989)。特に、南麓には「ふきだし湧水」よりも湧出量の多い湧水が存在している。真狩村の泉地区にある湧水がそれで、湧出量は豊水期には1 m<sup>3</sup>/秒以上にも達するという。また、真狩村の社地区の湧水は、「ふきだし湧水」に次ぐ第3番目の湧出量を誇っている。これら二つの湧水の水質は第2表ならびに第5図に記載してあるが、「ふきだし湧水」や後述するナイベツ川湧水に類似した性状を示している。なお、ふきだし湧水と真狩-1(泉)の二つの湧水には、5 mg/l前後のNO<sub>3</sub><sup>-</sup>イオンが認められたが、まだわずかであり現在は別段問題ないといえよう。

### 3.2 利尻島の甘露泉水

利尻島は、北隣の礼文島と共に日本の最北端部に位置する小さな島で、北海道本土とは約20 km 隔



第3図 甘露泉水の位置図



写真2 利尻島の甘露泉水

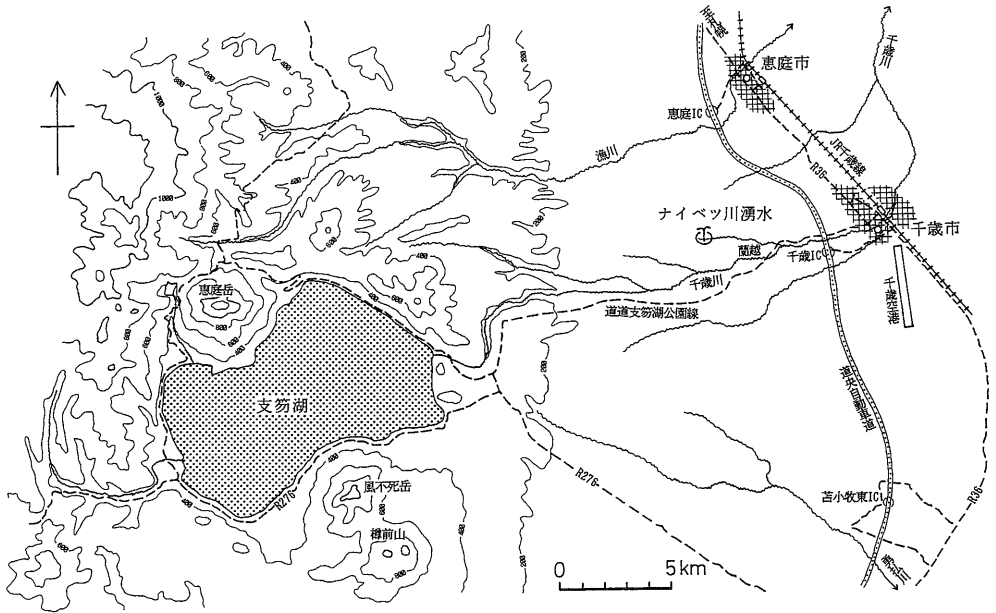
った日本海の洋上に浮かぶ直径約8kmのほぼ円錐型を呈した火山島である。稚内から利尻島行きのフェリーに乗り込み、美しいコニーデ型の山容を誇る利尻富士(利尻山)が次第に大きくなって来る姿を眺めながら約2時間すると、島の北岸の鴛泊港に着く(第3図)。下船して利尻富士町の市街地を抜けて、利尻山神社を左に見ながら舗装道路を登る。ポン山の西側を回るジグザグに折れた道を登りきると、自然休養林の入口へと着く。ここは利尻富士登山への登山口の一つであり、港よりここまでは約30分の道のりである。ここから雑木林の中の登山路をおよそ5分ほど登ると、小さな谷川が流れている場所に出会う。谷頭部は石組されており、その下部から泉が湧き出ている(写真2)。ここが甘露泉水の水源であり、自然林で囲まれた標高約250mの所に位置している。この湧水は、利尻山に降った雨水や雪が多孔質な岩屑物からできている火山斜面で地下に浸透し、山麓部の崖錐・扇状地性堆積物からなる地層中から湧出してきたものである。なお、この他にも湧水は利尻山の山麓部の至るところで出ているとされ、特に島の東海岸や西海岸近くには湧出量の大きいものも見られるという(第3図)。

甘露泉水の水温は9月に測定したものであるが、6.1℃と他に比べてかなり低い値であった。これは標高よりも利尻島自体の緯度が日本でも最北に位置しているためであろう。湧水の水量は1l/秒弱ほど

の小量であるが、水質は人為的な影響がほとんど加わっておらず、溶存成分濃度の合計も100 mg/lと自然の良質な水環境を示している。ただし、周りを海に囲まれた島という環境のため、風送塩の影響もあって、若干Cl<sup>-</sup>濃度の割合が高いようである(第2表)。このために水質のキーマイナグラム表示では、Na-HCO<sub>3</sub>型を示している(第5図)。

### 3.3 ナイベツ川湧水

ナイベツ川は、石狩川の支流・千歳川の支川の一つであり、千歳市の西に位置する全長約2.5 kmほどの小さな川である。千歳市の西方には、カルデラ湖である支笏湖を中心としてその周囲に恵庭岳・樽前山・風不死岳などの火山の位置する地域が展開している。支笏湖形成以前のこの地方は一つの高原性火山山地で、複雑な地形をなしており、そこに陥没によって一大円形の湖盆である支笏湖が生じたとされている(瀬川, 1974)。そして、初期の支笏湖は円形をなしていたがその後恵庭・樽前・風不死の三つの火山が噴出したために、現在のようなまゆ型を示すようになったとされている。支笏湖は長径約13 km、短径約5 kmの楕円形を呈し、湖面標高248 m、最大深度360 mの火山性陥没湖である。この湖の水は伏流水となって、支笏湖の周辺山麓部に無数の湧水群として湧出しているとされている。それら湧水群の中で代表的な存在がナイベツ川湧水である(第4図)。



第4図 ナイベツ川湧水の位置図

ナイベツ川湧水すなわちこの川の源流部(標高約60 m)は、千歳市蘭越から約2 kmほど遡った地点にあるという。このナイベツ川は、内別川あるいは苗別川とも書かれ、支笏湖から流れてきた千歳川に蘭越のあたりで合流するわずか2 km余りの短い河川ではあるが、湧水群の湧出量は源流部で約0.15 m<sup>3</sup>/秒と豊富であり、千歳市上水道の水源になっている。

さて、このナイベツ川湧水の湧出点に行くのにはどうするかというと、千歳市の市街地から西の支笏湖方面へは道道支笏湖公園線が通っている。この道路の蘭越の近くに、ナイベツ川を横切るように苗別橋が架かっている。この苗別橋の近くには上水道施設があり、その敷地内の川辺には湧水公園が設けられている。そして、この地点からおよそ2 km余りナイベツ川を遡った所が湧水地である。ところで、ナイベツ川湧水地に入るには当地区を管理している営林署の許可が必要とのことである。そのため、今

回の採水調査はこの苗別橋のたもとで行った。このために採水した水の水温は、9月ということで流下に従い若干昇温した結果であろうが、9.6℃とやや高い感じであった。しかしながら、採水した水はpH6.6、RpH7.0と微酸性を示し、電気伝導度は約77 μS/cmと低い値であった。水質的には比較的溶存成分量の少ないCa-HCO<sub>3</sub>型の組成を示し、良質であることを表している(第5図)。

なお、名水百選が指定されたことを契機に、「全国水環境保全市町村シンポジウム」が昭和60年8月に岐阜県八幡町で開催されて以来、毎年8月初旬の「水の週間」に合わせて、開催地を移しながら行われてきている。平成4年度は、千歳市でこのシンポジウムが開催されることになっている。

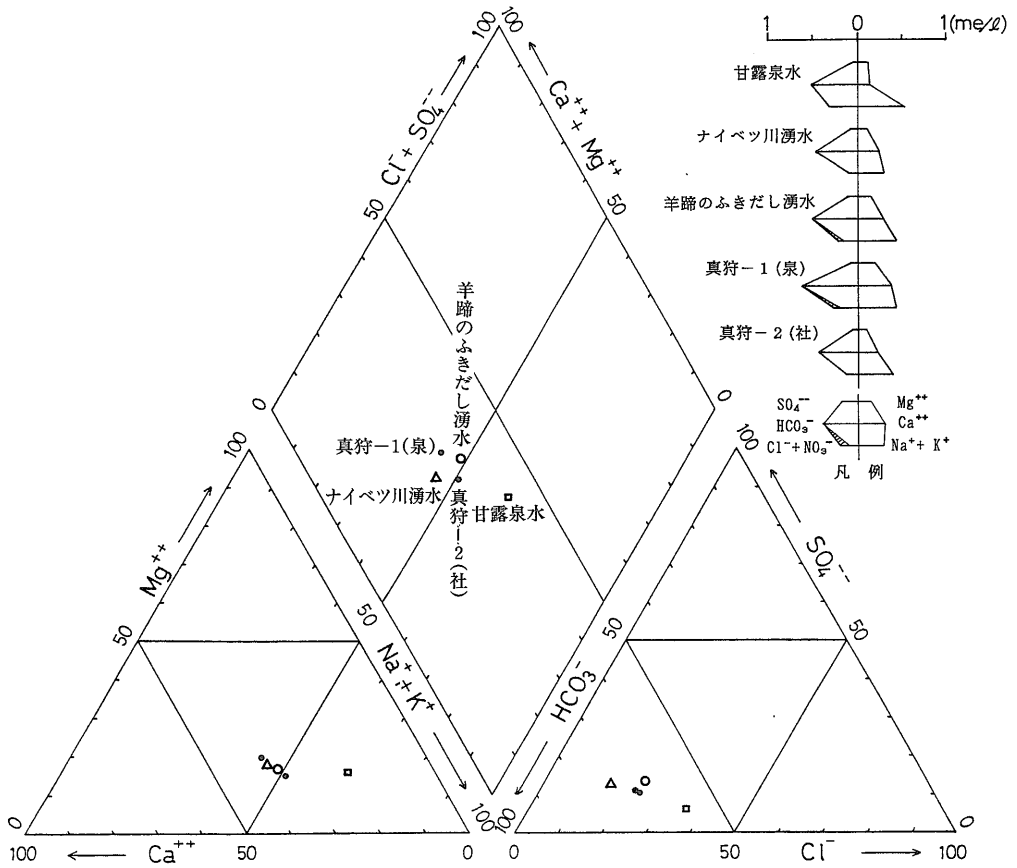
#### 4. おわりに

今回訪ねた北海道の3名水は、その地にまだ地

第2表 北海道の名水の水質分析結果

番号	名水等の名称	水源	年月日	電導度 (μS/cm)	水温 (°C)	pH	RpH	7pHカ (mg/L)	Cl <sup>-</sup> (mg/L)	SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> (mg/L)	NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> (mg/L)	Na <sup>+</sup> (mg/L)	K <sup>+</sup> (mg/L)	Ca <sup>2+</sup> (mg/L)	Mg <sup>2+</sup> (mg/L)	SiO <sub>2</sub> (mg/L)	計 (mg/L)
1	羊蹄のふきだし湧水 真狩-1(泉) 真狩-2(社)	Sp	910905	102.4	6.8	6.7	6.9	25.5	5.8	5.7	4.1	9.0	1.6	5.9	1.8	48.5	107.9
			910905	113.8	8.0	6.6	7.0	31.5	7.0	4.6	5.3	8.9	2.1	7.8	2.5	50.0	119.7
			910905	84.2	6.7	6.6	7.0	23.0	5.2	3.3	0.2	7.9	1.3	4.6	1.3	45.7	92.5
2	甘露泉水	Sp	910906	92.2	6.1	6.7	6.9	25.5	11.0	2.6	0.4	11.7	1.5	3.2	1.7	43.3	100.9
			910905	77.4	9.6	6.6	7.0	23.5	3.8	4.0	0.0	6.2	1.6	4.9	1.4	54.0	99.4





第5図 水質表示図

域開発の嵐が及んでいないために、自然のままの地に湧出する清冽な清水であった。水の汚染や水環境の悪化が叫ばれている名水もあるという昨今、これら3名水は希有な存在であり、こうした優れた水環境を今後もそのままに保護・保全していただきたい。ところで、これら三つの名水は、とも火山地域に位置する湧水であるという共通点がある。火山は、時としては恐ろしい災害をもたらす原因ともなるが、また別の面では人々に恵を与えてくれている。温泉や大規模な湧水、風光明媚な景色などがそれであり、火山がはぐくむ水環境としての地域特性はまさに自然からの贈物でもある。これら3地域でみられる水環境は、他の火山地域でもよくみられる事象であり、改めて火山が立地しているという自然界の摂理とその恩恵のほどを感じざるをえない。

なお、今回の北海道紀行は、往復に関越・北陸自動車道と日本海側を航行しているフェリーを利用して車でやってきた。広い北海道内を回り、各々の名水地を訪れるのには、やはり車の方が便利のようで

ある。車の込み合う首都圏地域などと異なり、道内の道路はかなり整備されていて、交通量や信号機も少なく、快適なドライブであった。また、首都圏や近畿圏などから北海道へ渡るのには、日本海側を航行するフェリーは割安であり、この航路のフェリーを利用して車で行くのが便利かも知れない。

文 献

環境庁(1985)：名水百選。ぎょうせい，127p.  
 瀬川秀良(1974)：日本地形誌・北海道地方。朝倉書店，303p.  
 島野安雄・永井 茂(1989)：名水百選の水質と水文環境。日本地下水学会秋季講演会要旨集，26-29。  
 主婦と生活社(1988)：日本名水紀行。主婦と生活社，143p。  
 鶴巻道二(1989)：名水を訪ねて(7)-羊蹄のふきだし湧水と湧水群。地下水学会誌，31，165-174。

SHIMANO Yasuo and NAGAI Shigeru (1992): Travels of Japanese valuable waters-(1) General remarks and Hokkaido area.

〈受付：1992年1月13日〉